国際交流員パトリック・ルムラーの

ドイツを語るパトリック

Vol.9 日本文化ブーム

たった10年前に若いドイツ人が、アメリカン文化とライフスタイルに憧れ、流暢な英語を話せるようになることは、ハリウッド映画をはじめ、アメリカンカルチャーのすべてを直接経験するために、欠かせないスキルであった。今でも、中高生の時に1年間アメリカに留学することが珍しくなく、アメリカ人と同じように英語を使いこなす人が少なくはない。英語は相変わらず一番人気がある外国語だが、若者の間で、日本語を勉強している人が年々増えている一方だ。その理由は、日本文化ブームである。

流行っているのは茶道や書道ではなく、空手と剣道でもない。日本語を学習する若い人のヒーローは、ハリウッドの俳優やサッカーのスター選手ではなく、ビデオゲームとアニメに登場する主人公である。ポケモンやマリオなどの一般的なキャラクターはもちろん、ファイナル・ファンタジーなどに登場するキャラクターの名前も若い人の間に知られている。

そのほかに、日本のアニメーションと漫画の文化もドイツの社会にしっかり根を下ろし、子供だけでなく、大人も少しずつ興味をもつようになった。若い人には、漫画やアニメーションの作者の名前まで知られ、ドイツは現代日本文化ブーム中と言えるだろう。

こうした流行の中で、ドイツの漫画家も生まれ、新しい話はまずは月刊誌として出版される。ドイツで一番人気があるのは「Daisuki（大好き）」という名称の月刊誌。漫画のほかに、日本の文化やライフスタイル、言葉などが紹介されているのは読者の中で人気がある。日本と同じようにコスプレも人気があり、年中全国的にコスプレコンベンションが行われる。漫画の人気がさらに上昇するように出版社もこうしたコンベンションをサポートし、さまざまなイベントを主催する。参加者は「Daisuki」で覚えてきた日本語をドイツ語の文書と混ぜ、「すごいや格好いい」などのような言葉を使う。日本語の本来の意味だけでなく、独製日本語さえ出てきた。ビジュアル系のバンドも登場し、その中に「Tokio Hotel」というバンドはドイツだけでなく、ヨーロッパをはじめ、北米と南米でも人気があり、ハリウッドの映画にも「Tokio Hotel」の音楽が使われた。35年前にドイツで人気があった「みつばちマーヤの冒険」は今でも人気があり、マーヤ遊園地まで作られはじめている。

現代日本文化がドイツに侵入し、若い人に強い影響を与えている。将来、ゲームデザインやアニメーション・デザインのような仕事に就きたい若者が増えているとともに、漫画の日本語版が読めるように、そして、日本文化を直接経験できるように日本語を学ぶ人も増えている。

私のドイツ語授業には「ベートーヴェン氏とシューベルト氏」、大昔に亡くなった音楽家などに興味をもつ生徒が多く、それでドイツを勉強し始めた生徒が多いと言えるだろう。若い人の間で人気がある現代的な日本語がうらやましく、ドイツ語は大昔の人と大昔に流行っていた文化の言語であると感じている。

第10回「波トリック」

講演会

テーマ：「ドイツとヨーロッパのサッカーについて」

南アフリカにおけるFIFAワールドカップの際に、ドイツサッカー連盟をはじめ、現在ドイツのサッカーリーグの構成などを紹介します。

- ●講　師　パトリック・ルムラー
- ●日　時　6月19日（土）午後1時30分～2時30分
- ●場　所　国分寺公民館　視聴覚室
- ●参加費　無料
- ●定　員　50名
- ●申し込み　6月7日（月）～18日（金）

問い合わせ先　生活安全課　☎40-5555